

2025年春 APAQG クアラルンプール会議について

1 はじめに

APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group : アジア太平洋地域航空宇宙品質グループ) は IAQG (International Aerospace Quality Group : 国際航空宇宙品質グループ) 傘下の地域組織であり、JAQG (Japanese Aerospace Quality Group : 日本航空宇宙品質センター) はその中心メンバーとして、IAQG の活動戦略目標に対応した APAQG 内の活動方針決定や、IAQG への APAQG/JAQG の意見提言においてリーダーシップを発揮している。



IAQG 構成図

2025 年 9 月 10 日～12 日にかけてマレーシア国クアラルンプールで、定期 APAQG 秋会議を開催した。今回は、会議に先立つ 9 月 9 日に、現地マレーシアの企業等を対象に、IAQG/APAQG の活動内容紹介や ICOT (International Certification Oversight Team) スキームの説明、IAQG メンバーシップおよび JAQG の活動内容などについて説明を行い、IAQG 活動への参画を呼びかけた。

マレーシアのクアラルンプール国際空港までは、成田空港からの直行便で 7 時間 30 分の昼間フライトで、乱気流等もなく快適であった。開催場所となったのはクアラルンプール国際空港から約 50 km、車で 1 時間程度の距離にある繁華街ブキッピンタン地区に位置する Pullman Kuala Lumpur City Center ホテルである。



Pullman Kuala Lumpur City Center Hotel

日本出発時は9月とはいえ、非常に蒸し暑く不快であったが、クアラルンプールは湿度も若干低く、過ごしやすい気候であった。以下、内容について報告する。

2 会議の概要

2. 1 APAQGクアラルンプール会議

(1) APAQG クアラルンプール会議の参加国及び参加組織

APAQG クアラルンプール会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係 40 組織が参加した。

番号	国名	メンバー資格	会社名	出欠	備考
1	日本	Full Member	三菱重工業株式会社	出	
2	日本	Full Member	川崎重工業株式会社	出	
3	日本	Full Member	株式会社IHI	出	
4	日本	Full Member	株式会社 SUBARU	出	
5	日本	Associate Member	日本電気株式会社	出	
6	日本	Associate Member	三菱電機株式会社	出	
7	日本	Associate Member	株式会社IHIエアロスペース	出	
8	日本	Secretariat	日本航空宇宙工業会（SJAC）	出	
9	中国	Associate Member	AECC（Aero Engine Corporation of China）	出	
10	中国	Full Member	AVIC(Aviation Industry Corporation of China)	出	
11	中国	Full Member	COMAC(Commercial Aircraft Corporation of China)	出	
12	中国	Affiliate Member	Honeywell China	出	
13	中国	Affiliate Member	Boeing Tenjin	オンライン	
14	韓国	Full Member	KAI(Korea Aerospace Industries)	出	
15	韓国	Associate Member	KAL(Korean Air Aerospace Business Division)	出	
16	韓国	Associate Member	LIG Nex1	出	
17	韓国	Affiliate Member	Hanwha Systems	出	
18	韓国	Affiliate Member	KAIA (Korea Aerospace Industries Association)	出	
19	韓国	Associate Member	Hanwha Aerospace	オンライン	
20	シンガポール	Affiliate Member	UTC(United Technologies Corporation)	出	
21	シンガポール	Affiliate Member	AAIS(Association of Aerospace Industries (Singapore))	出	
22	シンガポール	Affiliate Member	Thales Solutions Asia Pte Ltd	出	
23	シンガポール	Associate Member	Liebherr-Singapore Pte Ltd	オンライン	
24	インド	Affiliate Member	Bharat Forge	出	
25	インド	Affiliate Member	Mahindra Aerostructures Pvt Ltd.	出	
26	インド	Affiliate Member	Dynamic Technologies Limited	オンライン	
27	インド	Associate Member	TATA Advanced Systems Limited	オンライン	
28	インド	Affiliate Member	KUN Aerospace	オンライン	
29	インド	Associate Member	HAL(Hindustan Aeronautics Limited)	オンライン	
30	インド	Affiliate Member	MOOG INDIA TECHNOLOGY CENTER PVT LTD	オンライン	
31	インド	Affiliate Member	Expleo Technologies India Pvt Ltd	オンライン	
32	インド	Affiliate Member	SLN Technologies Pvt. Ltd	オンライン	
33	インド	Affiliate Member	Airbus India	欠席	
34	インド	Affiliate Member	Ankit Fasteners	欠席	
35	インド	ゲスト	NABCB（インドのAB）	オンライン	
36	インドネシア	Affiliate Member	GMF AeroAsia	出	
37	インドネシア	Associate Member	IAe (Indonesian Aerospace)	オンライン	
38	台湾	Associate Member	AIDC (Aerospace Industrial Development Corp.)	出	
39	タイ	Affiliate Member	AAR Component Services (Thailand) Ltd.	欠席	
40	フィリピン	Affiliate Member	Moog Controls Corporation	欠席	
41	フィリピン	Sector Member	Collins Aerospace	欠席	
42	マレーシア	Affiliate Member	PECCA Aviation Group	出	新メンバー
43	マレーシア	ローカルホスト	NAICO (National Aerospace Industry Corporation)	出	
44	マレーシア	ローカルホスト	MAIA (Malaysia Aerospace Industry Association)	出	
45	マレーシア	ゲスト	Dviation Group	出	

出席（オンライン含む）

40

（２） 評議会における承認及び決定事項

以下のとおりである。

- ・ 議事録：第 43 回 APAQG ジャカルタ会議議事録が承認された。
- ・ 会計報告：2026 年予算申請が承認された。
- ・ IAQG 賛助会員：PECCA Aviation Services が新規 IAQG 賛助会員として承認された。
- ・ 2026 年春季セクターミーティング開催地：2026 年 3 月 10～12 日に豪州メルボルンで開催される。

（３） 評議会（Council Meeting）概要

評議会では、APAQG セクター・リーダーの上原氏の開会宣言ののち、APAQG セクター・サブリーダーの陶山氏の進行により実施された。アジェンダは定例通り、投票メンバーの確認、前回議事録の確認、APAQG 内の各グループ活動状況の報告などが行われた。項目ごとの詳細は以下に示す。

(4) 評議会以外の活動

評議会に先立ち、APAQG SF(Space Forum)会議、COT チーム会議、Early Career Project 会議が開催され、それぞれの会議の概要も評議会で報告された。



評議会の様子



評議会後の集合写真(APAQG メンバー)

2. 2 評議会の概要

(1) 開会

APAQG クアラルンプール会議は、APAQG セクター・リーダー 上原 美基 氏(川崎重工業株式会社)の開会宣言をもって開始された。

以降、APAQG セクター・サブリーダー 陶山氏（株式会社 I H I）の進行により会議が開催された。



上原セクター・リーダー(川崎重工業株式会社)



陶山セクター・サブリーダー（株式会社 I H I）

(a) IAQG EC/OPC (Executive Committee/Operation Council) 活動報告

(上原 美基 APAQG セクター・リーダー (川崎重工業株式会社))

毎週開催で IAQG 全体方針を議論する EC の主要トピックとして、新規格体系(IA)への移行や翻訳作業準備の状況、IAQG ブランド戦略及び認証データベース OASIS の最新情報を報告した。また、月例開催で Voting Member へ IAQG 活動状況を共有する OPC の主要トピックとして、Operational Performance や AIMM の新しい Working Group 設立を報告した。最後に、2025 年の IAQG 目標に対する進捗状況、並びに APAQG の注力ポイントの達成状況を説明し、さらなる積極的な活動参加を依頼した。

(b) OMS および APAQG Charter and Procedure 報告

(城福 隆司 APAQG 事務局 (SJAC))

IAQG 内の組織変更があり、従来の OMS (Operation Management System) チームと Performance チームが統合され、Operational Performance チームが編成された。Operational Performance チームの APAQG 代表は株式会社 I H I の池崎氏であるが、引き続き城福が Operational Performance チーム内で従来の OMS チームの役割を引き継いでいるため、APAQG 会議では OMS 部分について APAQG Charter and Procedure に含めて報告することとした。

IAQG の Procedure、APAQG の Charter および Procedure の最新状況について報告した。IAQG Procedure

の変更部分について、および APAQG の文書保管場所の変更について説明した。



城福氏 (SJAC/APAQG 事務局)

(c) Communication 報告

(服部 明子 SJAC/APAQG 事務局)

IAQG のブランド戦略について説明した。従来のセクター名、AAQG, APAQG, EAQG をグローバルブランドとして IAQG を枕詞に IAQG AMERICAS, IAQG ASIA PACIFIC に移行することを報告し、移行のスケジュールを共有した。

また、セキュリティの観点から APAQG の会員専用のホームページを今年の 9 月末にクローズし、IAQG のホームページに新たに APAQG の会員専用のホームページが開設したことを報告した。



服部氏 (SJAC/APAQG 事務局)

(d) IAQG Performance (パフォーマンス) 活動報告

(池崎 隆司 APAQG Operational Performance チームリーダー (株式会社 IHI))

IAQG の委員会等の活動評価を担っていた 2 つのチーム (パフォーマンスチームとオペレーティング・マネージメント・システムチーム) が、活動の効率化を目的とした合併し、新たにオペレーショナル・パフォーマンスチームが設立された。このチームのセクターリーダーに、旧パフォーマンスチームのセクターリーダーを務めていた JAQG が池崎することが報告された。

IAQG の委員会等はその活動内容や評価指標 (KPI) を文書で規定することとなっており、その作成促進と、文書作成済み委員会にあっては評価の実施を、オペレーショナル・パフォーマンスチームが推進していくことが報告された。また、活動評価の一環としてパフォーマンスチームが行ってきたアンケート

ト活動も含め、IAQG が実施するアンケート調査は今後全て本チームが担当することも併せて報告された。



池崎氏（株式会社 I H I）

（e）APAQG COT（APCOT：Asia-Pacific Certification Oversight Team）活動報告

（小葉 正幸 IAQG COT APAQG セクターリーダー（株式会社 I H I））

IAQG COT（ICOT）および APCOT の構成、メンバーと役割、CO 監査員研修への参加計画、日韓の SDLs（Sector Document Liaisons）の役割分担、今年の業界監督活動（オーバーサイト）の計画・進捗、そしてインド RMS（Regional Management Structure）のアジアセクターへの移管について報告された。今年の業界監督活動は、セクターレベルおよび日本と韓国の国レベルの両方で予定通りに進んでいる。新規格への移行要件を定めた IAQG 補足規則 005 の草案はほぼ完成したが、規則で「T0」と定義されている移行再開日は、再開に必要な主要活動の進捗状況が不透明であるため、まだ明確には設定されていない状況。またインド RMS の移管に関する想定スケジュールが共有された。



小葉氏（株式会社 I H I）



APAQG COT チーム

(f) IAQG MRO (Maintenance, Repair and Operations) 分科会活動報告

(David Tan (IAQG MRO チーム APAQG リーダー(UTC)))

9110 規格執筆チームに APAQG から 2 名 (山本氏/株式会社 I H I、佐藤氏/SJAC) が新たに加わったことが紹介された。9110 認証の厳格な適用と移行作業に関する最終決定は、2025 年 10 月の IAQG 会議で確認され、主要な展開支援文書の作成も開始される計画であることが報告された。

9100 規格のマイナー改正が 9110 規格に与える影響についても確認され、9100 のマイナー改正が外注先への品質要求とそのフローダウンに関わるものであり、9110 規格としてはすぐに追随する改正は不要であると判断されたことが報告された。また、MRO における初回プロセス評価 (FPE) の項目は、次期 9110 改正に先行して SCMH として年内に発行される予定であることも報告された。



David Tan 氏 (UTC)

(g) 国際スペースフォーラム分科会

(松根 功忠 APAQG スペースフォーラム リーダー (三菱重工業株式会社))

スペースフォーラムは、9100 シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓発を主たる目的として活動を行っている。

APAQG においてスペースフォーラムを有する組織は現状 JAQG のみであり、JAQG スペースフォーラムが本会議を主導した。会議では、ホスト国マレーシアの宇宙機関である MYSA (Malaysian Space Agency) による基調講演や、JAQG スペースフォーラムの活動報告等を行い、活発な意見交換が行われた。

特に、更なる関係強化のためのプロモーション活動として、本年 11 月にフィリピンで開催予定の APRSAF-31 (31st Asia-Pacific Regional Space Agency Forum) に向けた計画も共有した。今後も APAQG の代表として、セクター内の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当該活動を IAQG へ反映出来るよう積極的に参画していく。



松根氏(三菱重工業株式会社)



前日に行われた APAQG スペースフォーラム会議の様子

(h) 規格要求分科会活動報告

(上原 美基 IAQG 規格要求チーム APAQG リーダー(川崎重工業株式会社))

IAQG 規格開発を管理する SMC (Standards Management Committee ; 規格管理委員会) の現体制及びメ

ンバー、並びに各 IAQG 規格の改訂作業状況・見直しの予定を報告した。さらに、IAQG 及びセクターの規格作成チームリーダーを募集中であり、積極的な応募を推奨した。



上原氏（川崎重工業株式会社）

（i）9100 規格チーム活動報告

（西口 潤 9100 APAQG SDR (Sector Document Representative) (三菱重工業株式会社)）

IAQG 9100 チーム APAQG メンバーが 1 名空席となっていたが、Jeffrey 氏が就任したことを報告した。昨年度 IAQG 内で独立レビューチームが立ち上げられ、IA9100 規格が正しいプロセスで改正されているかを評価が完了、IA9100 設計仕様書が Voting メンバー会社によって承認され、内容が固まった。主な提案は製品品質を強化することであり、この点を踏まえ、IA9100 規格改正案をチームで作成している。

現行の 9100 規格が長らく改正されていないこと、及び米国のステークホルダーからの要請により、現行の 9100 規格を部分改正し、発行することが IAQG バルセロナ会議で決定。3 セクター間で協議し、航空宇宙業界の課題である下請け管理を強化する改正案とすることに決定した。IAQG バルセロナ会議で部分改正規格案を作成し、2 回の投票が完了。コメントはすべて IAQG9100 チームで協議され、処置案決定し、規格に反映済み。投票では一部不承認があったが(アジアセクターはなし)、丁寧に説明し、理解いただく予定であることが報告された。

並行して進めている IA9100 本改正版は、IAQG9100 チームで調整ドラフト完成。新しい要求事項は、情報セキュリティ、強化する要求事項として、製品安全、模倣品防止、APQP 等があり、8/9-9/5 まで展開されたコメント募集期間に 190 件のコメントを受領し、まずはセクターチームでコメントレビューし、10 月に開催される IAQG ワシントン会議でセクター間の調整及び協議が行われることが報告された。

部分改正は、11 月頃規格案完成(発行は各国語翻訳後)、本改正は、2027 年 1 月発行予定 (ISO9001:2026 は 2026 年 11 月予定)で進めている。



西口氏（三菱重工業株式会社）

（j）9150 規格チーム活動報告

（Jeffrey Ho 氏 IAQG 9150 チーム（Association of Aerospace Industries (Singapore)））

9150 は認証可能な規格となることが説明されました。アメリカの主要ステークホルダーは全てのサプライヤーが OASIS に登録されることを望んでいます。9150 規格に認証されても ISO 9001 認証は自動的に得られないものの、規格の更新のメリットがあることが説明されました。

ISO 規格の遅延の影響を避けるため、ISO9001 の枠組みには基づかないことが説明されました。

今後数ヶ月でさらに情報が提供され、2026 年には調整ドラフトがリリースされる予定であることが報告されました。



Jeffrey Ho 氏（Association of Aerospace Industries (Singapore)）

（k）PSCI 製品及びサプライチェーン改善分科会活動報告

（Zuozheng Lou 氏 IAQG PSCI チーム APAQG リーダー（COMAC 社））

SCMH (Supply Chain Management Handbook) の活動状況が報告されました。グローバル PSCI チームと APAQG PSCI チームの両方において、リーダーシップの変更が発表されました。

SCMH の開発状況について報告されました。

- ・ 前回の総会以降、7 つの新規または改訂された SCMH トピックが発行された。
- ・ 8 つの SCMH トピックが開発中であり、そのうち 4 つは既に PSCI 承認プロセスにある。
- ・ 9110、9131、9138、および 9145 の規格を支援するために、4 つのトピックも開発されている。

- ・ 4つのSCMH作業プロジェクトが、まもなく「執筆者募集 (call for authors)」を開始する予定。



Zuozheng Lou 氏 (COMAC 社)

(1) 各国/地域のステータス報告

評議会で報告された国/地域のステータスは以下の通りである。

ア 韓国

KAQG 代表の Mr. Kim 氏より、KAQG の活動状況が報告された。KAQG は 2 つの委員会と 2 つのワーキンググループで構成されており、KRMC (Korea Registrar Management Committee) は JRMC (Japan Registrar Management Committee) と連携して監査結果を報告している。KS Q 9100 の監査コンプライアンスは 2025 年 1 月以降 KAQG プラットフォームに統合されており、KSPC (Korean Special Process Certification) ガバナンスが運用されている。また、8 月にはシンポジウムが成功裏に開催され、10 月には航空宇宙・防衛産業の主要イベントである ADEX が予定されていることが告知された。さらに、韓国空軍が 9110 認証を取得していることに触れ、韓国での 9110 認証推進に関するヒントを求める発言があった。

イ 中国

Jinfeng Geng 氏 (AVIC 社) より、CAQG の活動状況が報告された。CAQG はステークホルダーとの関係、組織構造 (評議会メンバー15 名を含む 75 名のメンバー)、および安全保障活動について報告した。安全保障活動には、IAQG および Nadcap 会議へのオンライン参加、8 月 22 日のミーティング (評議会とディフェンスミーティングで構成) の開催などが含まれている。

ウ 日本

オンライン参加の JAQG 幹事長 (高橋 JAQG 幹事長 (株式会社 S U B A R U)) より、JAQG の活動として以下が報告された。

- ・ 前回の APAQG インドネシア会議以後の、戦略検討委員会や幹事会等の開催状況
- ・ JAQG の構成メンバーの変更点や、日本国内の 9100 シリーズの認証数の変化
- ・ 活動全般として、JAQG は、IAQG や APAQG 活動に取り組み、また、IAQG からのフィードバックを日本国内に展開、また、各 WG の活動や、IAQG 活動への貢献状況、IAQG のブランド戦略に対する対応の決定内容

各 WG 等の主な報告点を列挙する。

- ① 規格 WG では、規格の和訳に加え、AIMM での 9110 に関する取り組みを進めている。

- ② SCMH WG では、SCMH の和訳の他、ウェビナーによる 세미나 を計画中である。
- ③ スペースフォーラムでは、APRSAF-31 の準備を進捗中である。
- ④ コミュニケーショングループでは、IAQG ブランド戦略に対する対応と、JAQG25 周年に向けての準備を進捗中である。
- ⑤ 特殊工程 WG では、Audit Criteria の和訳と、NADCAP 関連の行事の計画を進めている。
- ⑥ エンジン品質 WG では、AS1300 のポケットガイドの和訳等を実施し、その結果を HP に掲載した。
- ⑦ JAQG は I A Q G のブランド戦略に則り改称に賛成するが、改称の時期や会員に混乱を起こさないように配慮することについて、今後の調整事項としている

エ インド

Vijay Prajapati 氏 (TASL 社) の代役として、Mani 氏より InAQG (Indian Aerospace Quality Group) の活動について報告された。

その中で、ICOT スキームの確立、会員数が 130 社を超えたこと、そして AS9100 シリーズの認証数が 1,418 件を突破したことが強調されました。

また、戦略的ワーキンググループ、ウェビナープログラム、および様々な IAQG 委員会への参加についても詳細が説明されました。InAQG は、2025 年度と 2026 年度に IAQG SCMH のベストプラクティスと IAQG AIMM の条項ごとのベストプラクティスに関する認識を高めるためのウェビナーを開催する予定です。InAQG のボランティアは、IAQG SCMH プロジェクト、APAQG の若手キャリア活動、および AIMM やパフォーマンスを含むその他の活動に積極的に参加してきたことが報告されました。

インド RMC は昨年 11 月に EAQG COT によって承認され、2026 年には APAQG COT への移管を計画していることが報告されました。

(m) Early Career プロジェクト

陶山氏 (株式会社 I H I) より、以下の報告がなされた。

Early Career プロジェクトは若い品質技術者への IAQG 活動の周知・浸透を図るとともに IAQG 活動への参加者を増やすことを目的として開始されたもので、コロナ禍で一時中断があったが再開して活動をおこなっている。2025 年は 3 月のジャカルタでの APAQG 会議から開始され、指導員 (Mentor) の支援のもと 5 名の参加者 (Trainee) が実際の IAQG 活動に参加し、その内容を参加者から月 1 で報告してもらっている。今回のクアラルンプールの APAQG 会議でもハイブリッド形式で会議を実施し、中間報告としてこの半年間で参加した IAQG 活動内容や活動を通じて得た学び、今後参加する IAQG 活動について報告された。Early Career プロジェクトを通じて参加者の中で IAQG 活動への理解が進み、また重要性が認識されるようになってきている。引き続きプロジェクトを継続し、次回 3 月の APAQG 会議では、まとめの報告を行ってもらう予定である。

なお、2026 年も Early Career プロジェクトを実施する計画で年末にかけ 2026 年の参加者や指導者の募集をかけることが紹介された。



Early Career Project 参加メンバー

(n) 新メンバーの紹介

次章に示すプロモーションに参加していたマレーシアの PECCA Aviation Group が会期中に新たに IAQG Affiliate Member として迎え入れられた。また、シンガポールの Thales Solutions Asia Pte Ltd のメンバー資格の復帰が認められた。



PECCA Aviation Group のプレゼンテーション

3. APAQG Promotion

今回、APAQG 会議開催前日に APAQG Promotion 活動を実施した。マレーシアには 9100 認証取得組織が 100 社以上あるにも関わらず IAQG メンバーが 1 社もないため、この機会にマレー下国内の航空機産業向けに Promotion を実施し、IAQG/APAQG 活動への参加を促すためである。

マレーシアの政府系機関である NAICO (National Aerospace Industry Corporation Malaysia) の協力を得て、14 社からの参加者に対し APAQG より IAQG 活動内容の説明、9100/9110 の状況、ICOT スキームの説明、

JAQG 活動内容の紹介、IAQG メンバー資格等について説明を行った。

現地企業からは PECCA Aviation Group および NAICO より活動内容の紹介があった。PECCA Aviation Group は航空機のインテリアなどを製造している会社であり、前述した通り、会議期間中に IAQG Affiliate Member となった。なお、後日連絡を頂いたところによると、他にも複数の IAQG 参加希望があるとのことである。



APAQG Promotion Event 参加者

4 おわりに

4. 1 若い参加者の所感

比較的参加回数の少ない若手の方に、今回の会議の感想を聞いてみたので紹介する。

- ・ Space Forum はチームの一体感も強く活発に活動していると感じた。
- ・ Early Career プログラムは若手メンバーに様々な会議に参加する機会を与えてもらえる、有意義でありがたい活動である。今後も積極的に参加し貢献したい。

IAQG/APAQG では若い世代への継承が課題となっており、今後も若手技術者の継続的な参加が望まれる。

4. 2 筆者所感

開催地のクアラルンプールでは高層ビルが多いことに驚かされた。下の写真は有名な観光地でもある、Petronas Twin Tower と、その展望台からの景色である。この展望台は地上から 370 メートルの高さにあるため、他のビルが低く見えるかもしれないが、いずれも 40 階以上はありそうな高層ビル群である。

この地だけではなく、空港から市内中心部まで 50 km 程の距離を高速道路で移動中も、このような高層ビルが見えていた。地震が非常に少ない地域であることも要因であろうが、この 5 年の平均経済成長率が約 4.5% と、順調な経済発展をしている様子が見て取れた。平均年齢も若く、20～40 代の人口が増加していることが経済成長に寄与している模様である。



Petronas Twin Tower とその展望台からの風景

かつてはパーム油などの天然資源に依存していたマレーシア経済（実際、空港近くにはまだ大規模なプランテーションが残っている）であるが、近年では産業の多角化が進んでおり、航空宇宙産業の分野においては、マレーシア航空宇宙産業ブループリント 2030 という、2030 年までに ASEAN で第 1 位の航空宇宙産業国になるという計画を挙げている。前掲の通り、マレーシア国内には 9100 認証取得組織が 100 以上存在するが、これは、日本、中国、インドに比べれば少ないものの、東南アジアではシンガポールに次ぐ規模を誇っている。



Malaysian Aerospace Industry Blueprint 2030

(<https://static1.squarespace.com/static/61dc74c4cb0efe2330dd66b3/t/61fdd4fce6479d42cb56fcc7/1644025105806/MalaysianAerospaceIndustryBlueprint2030v12.pdf>)

今回の会議開催にあたって、現地政府機関の NAICO および会場となった Pullman Kuala Lumpur City Center ホテルのスタッフとは事前に何度も調整を重ねたが、彼らは英語のコミュニケーションに長けていた。マレーシアの公用語はマレー語だが、多民族・多言語国家であるため、事実上の共通語は英語になっているという事情があるようだ。英語が公用語であるインドやシンガポールからの参加メンバーもいるが、英語が堪能なマレーシアからのメンバーが増えることは、APAQG メンバー全体のレベル向上のために歓迎される。

IAQG 活動にアジア太平洋地域の意見を反映させるためには、APAQG 活動を活発化させ、多くのメンバーが

継続的に APAQG 会議および IAQG 会議に参加し、対面で議論を重ねることにより、アジア太平洋地区固有の課題の抽出および意識の共有が不可欠である。

このためには対面会議における議論の活発化が必要であるが、過去に参加した APAQG 会議（特に 50 名近くが参加する総会）において、比較的受け身の参加者が多いように感じている。いわゆる「言葉の壁」が障害となっていると思ってきたが、実はそうではなく、出席者同士の「心の壁」の方が大きいのではないかと考えている。韓国人や中国人のみならず、日本人の中にも英語が堪能な人はいるのである。

APAQG 会議は通常 3 日間開催されるが、小グループで議論を行う機会は少なく、何度か会議に参加し、顔は知っていても話をしたことがない人が多いようである。会議の 2 日目にはネットワーキングディナーを催しているが、大体国毎に集まってしまう傾向が見られ、交流の拡大につながっていなかったようである。

この状況を打開するべく、今回はディナーの席順をくじ引きで決め、半強制的に他国のメンバーと交流させることを企画した。後日、参加者に聞いた話では普段話をしない人と交流ができ、比較的好評だったようである。今後も国を超えた共同体意識の醸成のために、このような試みを続けたい。



Networking Dinner の様子

その中で日本としては、引き続きアジア太平洋地域での主導的な立場を維持し、本活動を活発に行う所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕